第 1 回：ミクロ経済学の考え方

北村　友宏

2023 年 9 月 14 日

本日の内容

1. この授業について
2. 基本的な専門用語
3. 仮定とモデル

授業の基本情報

- 科目名：ミクロ経済学
- 担当教員：北村　友宏
- 開講区分：後期
- 配当年次：1 年次
- 配当学科：
  - 商学科
  - キャリア・マネジメント学科
- 曜日・時限：
  - a クラス：木曜日 4 限
  - b クラス：木曜日 3 限
- 開講形式：
  - 対面授業

担当教員のオフィス・アワー

予約不要で，担当教員に対して授業内容等に関する質問ができる機会を設けます

- 日時：毎週木曜日 12:15〜12:45
  - ただし，授業がない日を除く
- 場所：21 号館 2 階講師控室

講師控室の学生入り口から入ると，事務職員の方がいらっしゃいますので，事務職員の方に申し出て，担当教員の北村を呼んでもらってください

担当教員への個別の連絡手段

担当教員のメールアドレス（kitamura.tomohiro@p.bus.kindai.ac.jp）に，メールを送ってください．ただし，以下の電子メールにおける最低限のマナーを守ってください

- 問い合わせ内容が分かるような件名を付ける
- 本文中で宛先（誰に対して送ったメールなのか）と自分の名前を述べる
- 友人と SNS で会話するような文面にしない
- 質問に対して返事をもらったら必ずお礼の返信をする

等

※電子メールは SNS や LINE とは違います

Google Classroom のコメント機能

- Google Classroom の限定公開コメントは使用しないでください．限定公開コメントは読まずに削除します
- 限定公開でない（クラス参加者全員に届く）コメントの送信は可とします．例えば，
  - 授業内容に対する質問
  - 教材の記載内容の誤り
  - 課題の出題ミス

  等，履修者全員に共有すべきことは，ぜひ全員に届くコメントとして送信してください

参考書

- 市野泰和（2015）『心と体にすーっとしみこむミクロ経済学』中央経済社.
- 伊藤元重（2018）『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社.
- 井堀利宏（2019）『入門ミクロ経済学（第 3 版）』新世社.
- N・グレゴリー・マンキュー著（足立英之・石川城太・小川英治・地主敏樹・中馬宏之・柳川隆　訳）（2019）『マンキュー経済学 I　ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社.

※教科書は指定しない

教材の配布・授業の連絡

- 講義資料
  - 担当教員の HP に掲載する
    HP（http://tomkitamura.html.xdomain.jp/）にアクセスし，「Teaching」→「ミクロ経済学（近畿大学経営学部，2023 年度後期）」と辿れば確認できる
- 提出課題・授業の連絡
  - Google Classroom のクラスページに掲載する

$$\Downarrow$$

定期的に Google Classroom のクラスページにアクセスし，連絡事項や提出課題などを確認すること

関連科目

- マクロ経済学
- 交通論 II
- 公企業経営論
- ネットワーク産業論
- 企業論
- ビジネスエコノミクス

成績評価

- 期末試験 70%
  - 持ち込み不可
  - 正規の後期定期試験期間に実施する予定
  - 時間割は，定期試験期間 1 週間前に UNIPA にて公表予定
- 提出課題 30%
  - Google Classroom にて実施
  - 数回課し，授業内容の定着を図る

$\Downarrow$

提出課題に取り組み，授業の内容を復習すること

※ただし，第 3〜15 回の 13 回分の授業のうち，正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は成績評価の対象としない（休講がなく，対面授業を 15 回実施する場合）

出席の扱い

- 第 3〜15 回の授業では，教室のカードリーダーに学生証をタッチして出席登録すること
- 授業開始 15 分前〜開始 29 分 59 秒経過後の間での学生証タッチをもって「出席」とする
    - 授業開始 5 分 0 秒経過後はシステム上「遅刻」となるが，この授業では，「遅刻」は「出席」として扱う（減点等はしない）

※出席はあくまで「成績評価の対象とするか否か」の判断材料．100 点満点の総合成績には算入しない

欠席の場合

- 第 3〜15 回の授業を欠席する（した）場合は，経営学部学生センターの押印を受けた欠席届を，紙媒体で直接，またはスキャンしたファイルを電子メールに添付して，担当教員に提出すること
- 電子メールで欠席届を提出する場合は，電子メールにおける最低限のマナーを守ること
- 欠席届を添付しない，「欠席します」「遅刻します」のみの電子メールでの連絡は不要
- 欠席届を提出したからといって，必ずしも成績評価上の考慮があるわけではないので注意すること．考慮したかどうかは非公開（UNIPA の出欠状況には空欄のまま）とする

追試験の申請

- やむを得ない事情により期末試験当日に試験を受験できなかった場合は，事由によっては追試験の対象となる
- 期末試験の追試験は，経営学部学生センターに申請すること
  - 担当教員への直接の連絡は不要
- 経営学部において，追試験対象となる事由のうち，1 年生に関係のあるものは以下のとおり
  - 病気やケガ（交通事故など）
  - 法定・指定伝染病（インフルエンザ，新型コロナウイルス感染症など）
  - 公共輸送機関の運休・遅延
  - 3 親等以内の親族の死亡による忌引

- 期末試験（追試験を含む）未受験の場合：
  - 成績を「不受」とする（得点非表示）
- 期末試験を受験したが，正当な理由なく 5 回以上欠席した場合：
  - 課題を提出していても，得点を 0 点とし，成績を「不可」とする

昨年度の成績分布

昨年度の「ミクロ経済学」の a クラス・b クラスを合わせた期末試験受験者 314 名の成績分布は以下のとおり

評価	人数（人）	割合（%）
秀	10	3.18
優	22	7.01
良	49	15.61
可	89	28.34
不可	144	45.86

単位取得率：54.14%

履修上の注意事項

- 授業中に私語をしないこと
- 定期的に Google Classroom のクラスページにアクセスし，連絡事項や提出課題などを確認すること
- 授業内容に関して理解できない箇所が出てきたら，担当教員に質問し，解決を試みること
- 担当教員にメールを送る際は，電子メールにおける最低限のマナーを守ること
- Google Classroom の限定公開コメントは使用しないこと
- この科目や担当教員に対する悪口や暴言を，SNS 等，不特定多数の人々に閲覧されうる場所に書き込まないこと

到達目標

以下の能力を身に付けることを目指す

- 社会で起こっているさまざまな経済問題およびそれをめぐる政策の効果について，経済学の考え方に基づき図を用いて説明できるようになる
- ミクロ経済学の基礎的な計算問題を解けるようになる
  - 小学校・中学校レベルの計算（図形の面積，分数，連立方程式，関数のグラフでの図示等）が登場するので，これらのやり方を忘れている場合は，受講に先立って復習しておくこと

財・サービス

- 人間の欲望を満たす有形のものを財（goods）という
  - e.g., りんご，みかん，ぶどう，パン，おにぎり，かばん，時計，スマートフォン，パソコン
- 人による無形の経済活動をサービス（service）という
  - e.g., 医療，教育，理髪，マッサージ，交通輸送，水道給水，下水処理

価格と市場

- 財・サービスとお金との交換比率を価格（price）という
  - e.g., パソコン 1 台 100,000 円
- 売り手と買い手による，特定の財・サービスの取引の場を市場（market）という
  - ※「しじょう」と読む
  - 買い手は，売り手に価格を支払って財・サービスを購入・消費する
  - 売り手は，買い手から価格を受け取って財・サービスを販売する

ミクロ経済学

- 特定の市場における個々の家計や企業の行動, 財やサービスの需要量・供給量・価格の決定メカニズムなどを分析対象とする学問分野をミクロ経済学（microeconomics）という

仮定の役割

- 複雑な現実世界をそのままの形で分析することは不可能
- 経済学では仮定（assumption）を置いて分析することで，複雑な現実世界を単純化して理解しやすくする

$$\Downarrow$$

単純化された架空の世界での現象を理解することが，複雑な現実世界での現象の理解につながる

人々の行動に関する仮定

- 人々は合理的に（rationally）行動する
- 合理的な行動：
  - 与えられた条件・制約（置かれた状況）のもとで，自分にとってベストな結果を目指して行動すること
  - e.g., 家計（消費者，買い手）は自分の満足度を最大化
  - e.g., 企業（生産者，売り手）は自社の利潤を最大化

$$\Downarrow$$

人々は自分の好みと目的を把握し，何かを選ぶときは冷静に考えて自分のベストを尽くす

- 本講義では，人々が合理的に行動すると仮定して話を進める

他の条件一定の仮定

- 他の条件を一定とする（ceteris paribus）：
  - 重要な要因のみを抽出し，他の要因は変化しないものと考えて，それらの効果を無視する
  - e.g., みかんの価格と需要の関係を分析するとき，他の食料品の価格，所得水準，天候などは変化しないものと考える

市場に関する仮定

- 市場は完全競争市場（perfect competition market）である
- 完全競争市場の特徴：
  - 多数の売り手と買い手がいる
  - どの売り手も同質財（全く同じ種類の財）を販売

$$\Updownarrow$$

- 市場は不完全競争市場（imperfect competition market）である
- 不完全競争市場の例：
  - 独占市場（売り手の企業は 1 社だけ）
  - 寡占市場（売り手の企業はごく少数）
  - 差別化財の市場（企業毎に異なる種類の財を販売）

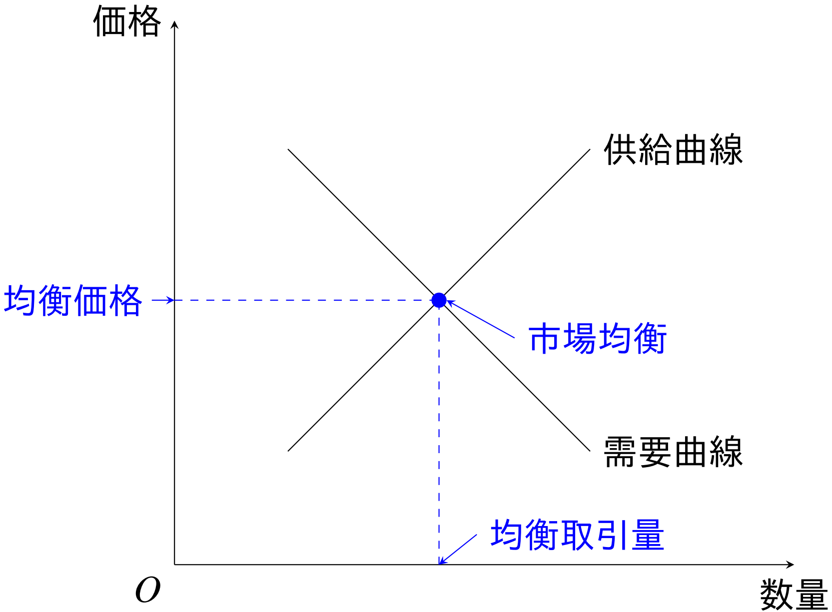
$\Rightarrow$ さまざまな仮定の下での分析が可能

経済モデル

- 経済学では，置いた仮定のもとで，図や数式でできたモデル（model）を用いて分析する
  - 現実世界のミニチュア模型のようなもの
  - 多くの細部が省略され，重要な部分だけを見ることができる
  - 経済のすべての特徴を備えているわけではない

$$\Downarrow$$

ミクロ経済学の中で最も基本的な，需要と供給のモデルは，完全競争市場を仮定すると，次スライドの図のようになる


価格
供給曲線
均衡価格
市場均衡
需要曲線
均衡取引量
O
数量

- 需要曲線や供給曲線は，どのような考えから導出されるのか？
- どのようなメカニズムで市場均衡に到達するのか？
- 市場均衡は望ましいのか？ 望ましいとすれば，どのような点で望ましいのか？

$$\Downarrow$$

次回以降の講義で解説する